

交流を広げる道

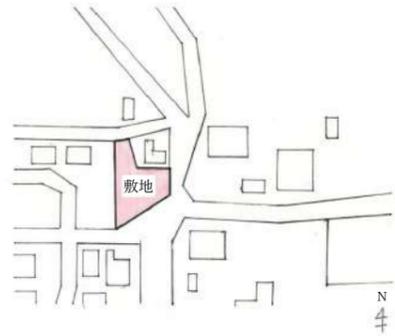
昔、道とは
 人と人を繋ぐ身近な交流の場だった。
 かつての住まいは
 建物の造りも開放的であつたり
 井戸端会議があつたり
 近所にお裾分けしてみたりと
 「自然な交流」は現在よりも多くあつた。
 そこで今
 必要とされる交流は、「自然な交流」だと考えた。

空き地であり、耕作放棄地である
 貴重な不動産を活用し、自然な交流を呼ぶ。

交流を創り出すのではなく、自然な交流を広げる。
 道のような住宅から広がる自然な交流は、
 私たちを自然に繋げてくれることだろう。

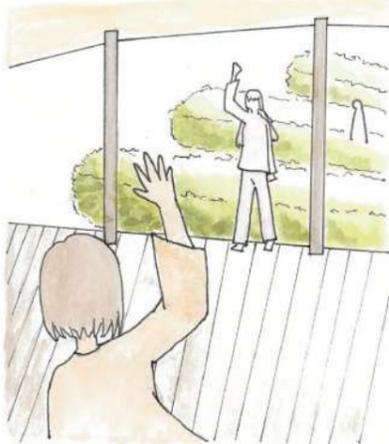


01 敷地

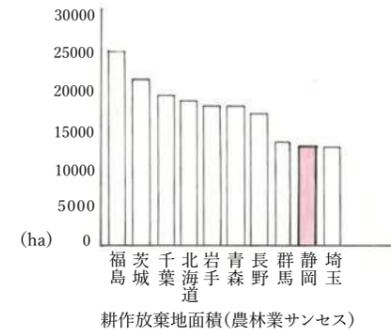


静岡県浜松市中央区の一角。
 この土地の特徴は、
 緩やかな傾斜地であり、
 浜松茶の生産地でもある。

人同士の交流

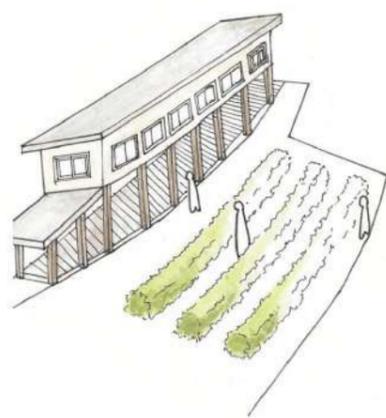


02 背景

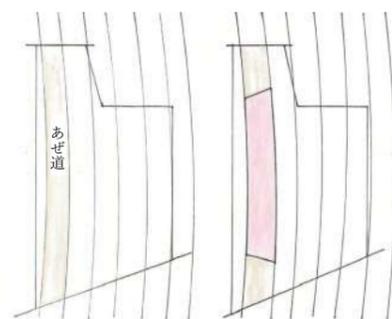


静岡は全国9位とTOP入りしている。
 放棄地があると、
 災害時の危険性が高まる他にも、
 様々な問題がある。

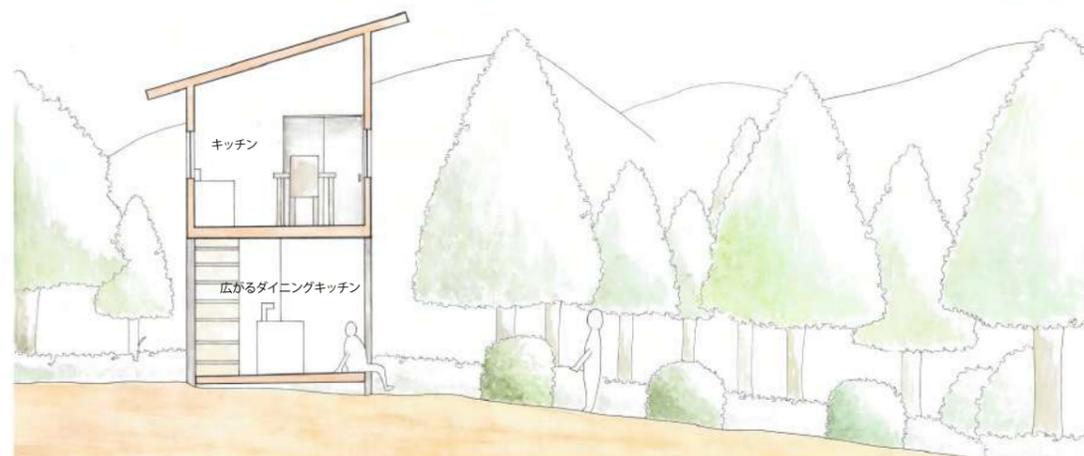
地形を利用した交流



03 地形の利用



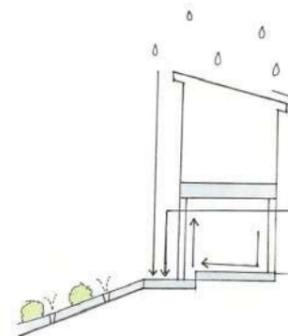
敷地内のあぜ道と
 等高線に合うような
 建築物を考え、
 地形や自然環境を考慮した
 建築を提案する。



断面図

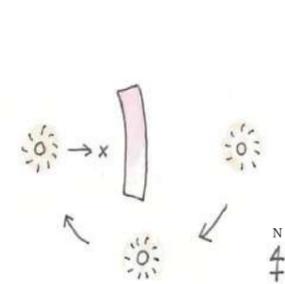
0 1.5 m

04 水の利用

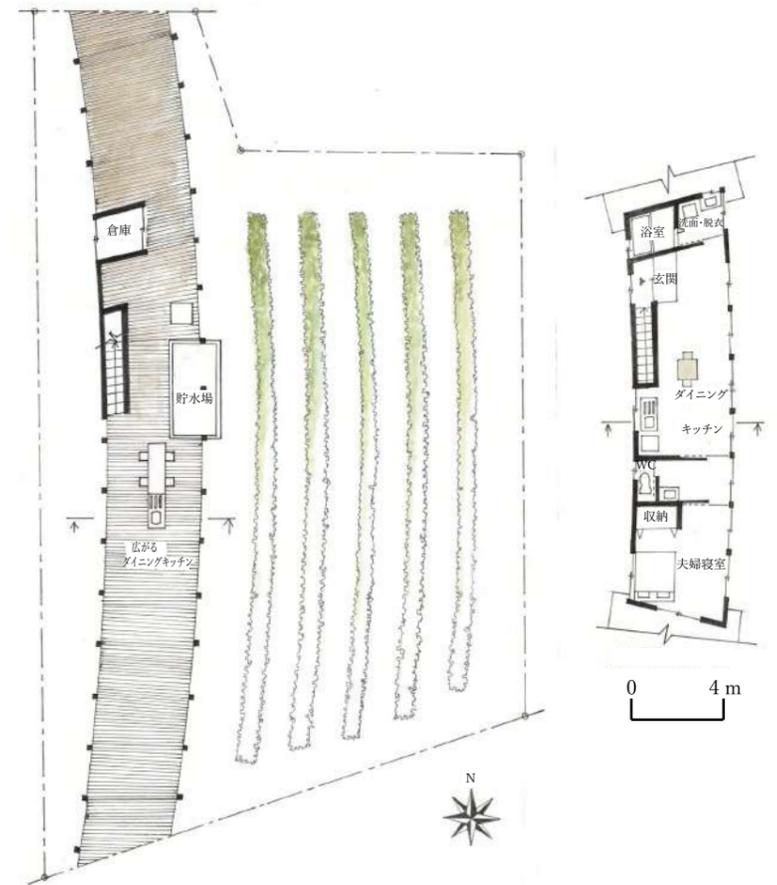


雨水を貯め、
 床下にまわすことで、
 冷暖房する。
 茶畑の散水にも利用。

05 光の利用



朝～昼までの日
 を取り込み、
 西日を防ぐ
 配置とする。



配置図兼1階・2階平面図